

■ 飛行中の姿勢変更システム

TENAX3 では飛行中のフライトポジションの変更システムに4つの方式を用意しています。

タイプ1： タイトロープ方式

最もシンプルで初代テナックスからの高い実績を誇ります。バックプレートに埋め込まれて強く張られた太さ10mmのロープに沿って、メインラインが前後にスライドするものです。メインライン以外の補助ラインはありません。

頭下げ角度のフライトポジションの変更には、ベースバーを垂直に軽く押し下げたり引き上げたりして行います。このときロープを通っているメインライン下端のナイロン製スライダーに生じる摩擦で、ほかの固定システムに頼ることなく、任意のポジションが保てるようになっています。

図1



図2



図3



図1：バックプレートとメインライン。

図2：メインラインがスライドする強く張られた太さ10mmのロープは、ストップクランプが1個ずつ前後を通っていて、それぞれ3箇所位置が選べます。

図3：ストップクランプの移設は、バックプレート裏側でストップクランプを留めているボルトを六角レンチではずして前後3つずつある他の穴へ通しなおします。

タイプ2： フリクション方式

この方式はタイトロープ方式にとってもよく似ていて、メインラインの中央に縫いこまれたクリートの中を通る太さ4mmの補助ラインによって姿勢安定性をさらに強化したものです。重心調整はタイトロープ方式と同じです。補助ラインはバックプレートに前後で固定されていますが、固定している結び目の長さを変えることによって頭上げ/下げの角度を変更する時のフリクションシステムの摩擦の重さを変えることができます。

図4



図5



図4：フリクションシステムのついたメインラインとバックプレート。

図5：バックプレート裏で補助ラインの結び目位置を変え、フリクションの摩擦の重さを変える。

タイプ 3： レバー方式

飛行姿勢の頭上げ/下げ角度のロック操作を、バックプレート裏に設置されたレバーをパイロットの腰で押してやる事によって行います。メインラインは、鋼製のバーに沿って動き、飛行中は足元に取り付けられている細いラインに引っ張られて一番後ろの位置に保持されます。カラビナから前下方へ伸びるピッチラインの長さを操作することで、飛行姿勢の頭上げ/下げ角度を変化させます。

腰を押し上げてレバーを押すとピッチラインのロックが外れて最大 25cm 伸びて、ハーネスは頭下げになっていきます。頭上げにしていくには、ベースバーを垂直方向へ軽く押し下げて任意の頭上げ角度にしながらかレバーも押してやるとピッチラインが内部のバンジーで引き込まれるので、そこでレバーを戻すと頭上げ/下げ角度がロックされます。

図 6

図 7

図 8



図 6：ハーネスに取り付けられた状態でバックプレート裏側からみたところ。

図 7・8：腰を押し上げてレバーを押すと、レバーで固定されていたベルトがバンジーで後方へ引っ張られて、ベルト前端へ結び付けられているピッチラインが引き込まれます。腰を離してレバーが戻ると、ベルトがレバーで押さえられて、任意のピッチラインの位置で固定。

タイプ 4： PTS 方式

レバー方式に似た可変ピッチラインシステムですが、パイロットのフットコーン踏み込み/脱力でロック操作ができる新しい方式。2014 年から、世界チャンピオンのクリスチャン・チーク、アレックス・プロナーをはじめとするイタリア ナショナルチーム全員やフランス、ドイツのトップパイロットたちが使用しています。スライダー部はチーク、プロナーが開発し愛用するタイトロープ方式で、競技に多用される中・高速域で素晴らしい効果を上げています。

図 9

図 10



図 9：バックプレート裏側の PTS メカニズム。

図 10：PTS のロック機構。足を踏み込むと画面右に伸びるラインが引かれてロックがかかります。